

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 別府鶴見丘 高等学校	
学校教育目標	未来を切り拓く学力と探究能力を身に付け、主体的で心豊かな人間性を兼ね備えた、次代の国際社会の発展や地域創生に貢献できる健やかで逞しい鶴高生を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・学校経営ビジョンが明確に整理されており、方向性も定まっている。 ・校長の言葉で生徒に発信し、担当がさらに落とし込みをすることで校内全体へビジョン共有が図られている。 ・今後の発展として、地域社会へのビジョンの発信と浸透が出来ればより強い力になると確信する。	○月1回の職員会議や随時行っている各種研修において、校長の経営方針に則った具体的な方針について全職員へ確認し、現場への落とし込みを図る。 ○月1回の全校集会や始業式・終業式における校長式辞で、具体的にどのような力を身に付けてもらいたいのか、またそのためにどのような行動が必要とされるかという話をする。また、その話を受けて、学年集会やホームルームで学年主任やクラス担任から改めて話をすることで生徒への浸透を図る。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・良い。 ・不測の事項に対する事前準備として危機管理マニュアルの随時更新に取り組んでいる点が評価できる。 ・危機管理対応の中で、外部連携の意義を組織内で共有出来ている部分が評価できる。 ・防災訓練等の実務的な活動に対してのPDCAを回していくと、さらに意義ある活動になると感じた。 ・伝統を守り卒業生の信頼を得ている点は維持しつつ、時代に合わせた刷新を説得力を持って進めてほしい。	○12月から1月にかけて、主幹教諭を中心に分掌の課題や学年の課題、また組織としての全体的な課題を全教職員から意見してもらい、2月の諸会議を経て、3月に検討するサイクルを確立する。 ○改善内容によっては、テーマ(学校教育目標に関するもの)をしぼり、職員全体で協議できる場面を設定する。 ○会議や研修、また管理職による面談を通して、学校全体の質を高めるため教職員一人ひとりが自ら学校運営に参画しようとする意識を醸成する。 ○事案によっては、関係機関(警察やスクール・ロイヤー等)との連携を図り、情報共有を行う中で学校だけでは解決困難な事案に対応する。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・良い。 ・外部連携の枠組みは評価できるが、今後は生徒と住民という「個のつながり」の深化に期待する。 ・同窓会との連携は重要だが、現状の就職支援にとどまらず寄付活動等への発展を期待したい。 ・文化部の活動拠点を地域社会にも広げてほしい。外部との接点を持つことによる活動の発展を期待したい。	○学校ホームページは2日に1回の割合で更新しているが、今後は更新頻度を高めて学校の情報を発信していく。 ○「総合的な探究の時間」では地域の産・官・学・民と積極的な交流を図りながら、地域社会での社会実装に結び付き、地域社会を支えられるような人材の育成につながる活動を展開することを目指していく。 ○APUとの連携協定の締結を継続しているので、より発展的な取組を実施するために計画的かつ組織的に連携を活かす方策について検討する。 ○部活動等による地域貢献について今後も推進していけるよう、分掌や学年部と検討する。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・授業については十分に納得のいくものである。地域社会の期待に応え続けるアップデートを期待したい。 ・ペアワークの質が向上し、ICTを効果的に取り入れる空気が醸成されるなど、授業の質的改善が見られる。 ・板書により学習目標が明確に提示されており、生徒が授業のねらいを把握しやすい環境が整っている。 ・保健体育の授業スタイルの改善に期待する。生徒の意欲を高めるため、最新の指導法等の研修を推奨したい。 ・生徒の納得感を得られるよう、目的を明確にした指導への転換や、最新の指導技術の習得に努めてほしい。	○年間2回(7月・11月)の授業研究会を実施し、それぞれの教科指導法について検証する。 ○週1回実施の教科会議では各自の指導法について共有を図り、より効果的な指導を模索している。また指導法においては、生成AIを活用している教科もあるので、効率的かつ効果的な指導の普及を図る。 ○研修会や会議を通して、答えを教員が教える(生徒が教え合う)のではなく、生徒が自ら問いを立て、その解決に向けて探究していくプロセスを教員が支援するような雰囲気醸成していく。 ○生徒が主体的に学習に取り組めるようにICT教育サポーターと連携して教職員対象のICT研修を実施し、生成AIの活用等について理解を深めていく。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・良い。 ・いじめの兆候に対する生徒の不安を真摯に受け止め、組織として迅速かつ適切な対応に努めてほしい。 ・欠席生徒への遠隔授業対応が着実に進んでいる点は、学習機会の保障として高く評価できる。 ・生徒間の円滑な関係構築を支援するため、対人スキルを磨く機会の更なる創出を検討されたい。	○人間関係作りプログラムの「輪和笑タイム」の内容については、3年生は2学期から学年主導でその時期に必要な取組を実施するなど、今後も学年の様子を見ながら柔軟に対応していく。 ○不登校の生徒に対して月1回の「拡大学年会議」や適時実施している「特別支援会議」で、学年主任、該当クラス担任だけでなく管理職や、担当分掌主任、養護教諭、該当学年所属の先生方(場合によってSCやSSW)とも情報を共有したうえで対策を講じる。 ○長期欠席者については、学力保障の観点からオンライン授業の実施等を推奨している。今後は実施のあり方について検証を重ね、より柔軟に個別対応できるシステムを構築していく。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・空調設備の整備が進み、学習環境が着実に改善されている点は、生徒の健康維持の観点からも望ましい。 ・ロッカーの収納力に課題が見受けられるため、整理整頓の習慣化や収納の工夫を促すべきである。 ・部室棟の老朽化や利便性に課題が見受けられる。施設の再整備を果へ働きかけてほしい。 ・部活動後の校舎の暗さに不安を感じる生徒がいるため、センサーライトの導入等、防犯面を検討されたい。	○身の回りやロッカーの整理整頓について継続的に指導するとともに所持品(物品)の管理のあり方についても常時指導を重ねる。 ○令和8年度大規模改修1期工事が決定したため、その期間に事故等が起こらないよう準備を進める。 ○予期せぬ事態(災害等)に対しては、「危機管理マニュアル」の年度始めと年度末に確認と更新を行い、その後職員会議や避難訓練を通じて内容の周知徹底を図り、さらに必要に応じて適宜内容を更新する。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・働き方改革の観点から、職員会議の効率化を図り、円滑な運営のための研修機会を設けてほしい。 ・教員同士の相互協力体制は非常に良好であり、この強固な連携を今後も継続・発展させてほしい。 ・教職員の働き方改革と並行し、生徒も主体的に学ぶ姿勢を養い、効果的で調和のとれた教育を期待したい。	○定時退庁日を設定して、「ノー部活day」を実施して、定時退庁を推進する。また、職員が互いに年休の取得や振休の取得をしやすい環境づくりを目指す。ただし定時退庁を意識しすぎて他の校務にしわ寄せがいかないよう、あらかじめ計画的な業務の遂行を目指すよう声をかける。さらに、業務の遂行の効率化を図るために、進路指導や教科指導において生成AIやICTの活用の充実を図る。 ○職員会議を実施する際、あらかじめ議題を確認したうえで必要な時間を捻出し、勤務時間内に会議を終了し、かつ十分な審議を行えるよう時間を確保する。
	学校課題の解決に向けた取組等	○魅力ある学校づくり ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・難関校への進学に向けた熱意ある指導を、今後も一層継続し、生徒の挑戦を支えてほしい。 ・家庭学習の質を高めるため、ICTの積極活用や宿題の精査を通じた学びの時間確保に努めてほしい。 ・文化部が地域活動へ積極的に参画し、その専門性を活かして地域を活気づける取組を期待したい。 ・自分自身と他者、そして社会との関わりを大切にする姿勢が、生徒に広く浸透することを期待する。	○今年度2年目となる「プログレッシブ・プログラム(難関大学志望者向けプログラム)」は、計画通り10回以上実施したので、次年度以降も内容を検証して改善していく。 ○ここ数年、多様な入試への対策として、推薦入試や総合型選抜で合格した本校卒業生の協力を仰ぎながらより細やかな指導を実施しているので継続実施していく。 ○別府市、日出町だけでなく、大分市内の中学校へも広報活動の範囲を広げて、本校の魅力を発信していく。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い授業水準を維持しつつ、絶え間ない自己研鑽を通じて地域の期待に応え、求められる学校であり続けてほしい。</li> <li>・教職員一人ひとりが誠実な教育活動と専門性の向上に努め、組織一丸となって教育の質を高める運営を期待したい。</li> <li>・積極的な情報公開により、教育活動の特色と魅力が十分に可視化されている。</li> </ul>			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に示す学校経営方針やグランドデザインを全教職員に浸透させ、学校教育目標と結び付いた教育活動を組織的に展開できるよう管理職および運営委員によって具体的な方策を示していく。</li> <li>・学校教育目標を見据えて行われるすべての教育活動について、全教職員がその目的や意義を理解して組織的に生徒への指導にあたられるようなシステムを確立する。</li> <li>・「総合的な探究の時間」において、地域社会を支えられるような人材の育成につながるよう、地元企業や事業所また大学等との連携を図り、地域課題の解決に向けて社会実装を試みるような探究活動を展開する。</li> <li>・働き方改革について、可能な限り業務の平準化を図るとともに、教職員が互いに支援し合えるような風通しの良い職場環境をつくることで、業務負担の軽減やストレス診断における健康リスクの軽減を目指す。</li> </ul>			